

さまざまな質問や意見が投げかけられた懇談会
どんな質問が多かったのか、町はどう答えたのか



徳山コミュニティ防災センターには34人が参加した。



小長井集会所 61人参加



中川根南部小 37人参加



千頭東区会館 47人参加

ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう

対話

町政懇談会の模様を振り返る

【問】野菜など作物の鳥獣被害
(イノシシ、ハクビシン、アナ
グマ、カラスなど)が増えて
いると考えている。

【答】茶業の後継者がいなく
なってしまう心配がある。機
械化による集団営農などの構
想が必要ではないか。

【答】茶業では、生計を立てる
ことが難しくなってきており、
このことが兼業化や茶業従事
者の減少につながっている。
経営の継承が困難な農家が多い
中、新規参入者などを受け
入れる体制づくりも必要と考
える。そのため、生産効率を
高める機械化・省力化は必要
な手段だが、傾斜が多く、小
規模に散在する本町の茶園の
場合、大型機械の性能を最大
限生かすためには基盤の整備
が必要となる。投資効果を上
げるためには、規模の拡大、
営農組織化、機械の共同利用
などが重要で、加工工場と連
携した機械化生産の検討も必
要。町では、県の指導を受け
ながら、営農指導を進める農
協とも連携し、支援を続けた
いと考えている。

【問】行政改革に取り組んでい
るようだが、その進ちょくは。

【答】農作物の被害が町全域で
増加していることは、町とし
ても深刻な問題と考えている。
防護柵の設置補助、獣友会へ
の委託による有害鳥獣駆除な
どの対策を講じているが、被
害は減っていないのが現状。
現在実施している対策を検証
し直し、より効果の高い対策
を考えていきたい。

【問】年金だけでは生活が厳し
い。高齢者の所得が上がる仕
事を開発してほしい。

【答】高齢者の雇用環境は依然
厳しい。本町では、高齢者の
就労機会確保と福祉増進を図
るために、シルバー人材セン
ターに補助金を交付し、同セ
ンターの育成および援助をし
ている。同センターでは、運
営基盤の強化や事業拡大など
の活動を展開中であり、この
センターを活用し、生きがい
の充実や社会参加へつなげて
もらえたると考えられる。

【問】主要道路(バイパス)の
早期着工・整備を願いたい。

【答】関係機関への要望を継続
中である。大きな事業費がか
かるため完成時期については
示されていないが、早期着工・
整備が実現できるよう、今後
も働きかけていく。

【問】介護施設への入所待機者
が多いと聞く。今後の対応を

困っている。対策を考えて。
【答】農作物の被害が町全域で
増加していることは、町とし
ても深刻な問題と考えている。
防護柵の設置補助、獣友会へ
の委託による有害鳥獣駆除な
どの対策を講じているが、被
害は減っていないのが現状。
現在実施している対策を検証
し直し、より効果の高い対策
を考えていきたい。

【問】投票所が遠くなり、投票
所に戻す考えはないか。

【答】投票区の減は、役場職員
(選舉事務従事者)減少への
対応と選舉事務経費の削減を
目的としている。町としては
このままの体制で実施してい
きたいと考えている。期日前
投票などの有効活用もお願い
したい。

【問】いやしの里診療所の今後
の見通しは。

【答】現在、さまざまな医療機
関などに伺い、後任の医師を探
している。1日も早く後任
の医師が見つかるよう努力し
たい。

【問】地区集会所は耐震構造で
はない。老朽化も激しく維持
管理に苦労している。地元負
担金の軽減をお願いしたい。

【答】集会施設の維持管理は各
区にお願いしている。耐震補
強、屋根の改修も修繕工事と
して対応してほしい。集会施
設の維持管理に対する町から
の支援は合併時に統一してい
るため、ご理解いただきたい。

まちを元気に

現在、国内はおろか世界を

見渡しても先行き不透明
な不況が続いている。

私は町長に就任してから一
貫して、『町を元気にしたい』
と言い続けてきました。しか
し町の現況を言えば、人口は
ピーク時の3分の1程度にま
で減少し、今年1年を振り
返ってみてもさまざまなか
で厳しい情勢が続いています。

さまざまな分野で課題が山
積していますが将来に向け
て、この町を元気にしていか
なければなりません。「癒し
の里づくり事業」や「生涯学
習事業」など、地域の元気づ
くりには、何より地域の皆さ
んの力が必要です。町としま
ず、各自治会が力を付けるた
めのサポートなどを検討して
います。今後とも皆さんのご
理解、ご協力をお願いします。



佐藤公敏町長

【問】「人口増加」させるための
定住対策や職場の確保など、
今後どのように方針を立てて
実行していくのか。

【答】若者定住対策の住宅を地
名地区に建設し、一定の成果
を上げている。ちやつきり娘
養成講座や緑のふるさと協力
隊などの交流事業も鋭意継続
中である。就職口の確保は難
問だが、売れるものづくりの
推進を図るなどして新たな雇
用を生み出すことが有効な施
策になるとを考えている。

【問】光ファイバ網整備は、本
当に実施するのか。また住民
の理解は進んでいるのか。事
業開始後の機器の維持管理經
費などに不安はないか。

【答】本事業は、この町の将来
にとつて必要不可欠な事業で
あると確信している。都市部
との格差のみならず、本町内
でも情報格差が発生している
現状があるため、1日も早く

解決を図らなければならない。
住民の理解度はまだまだ足り
ないと感じているが、各団体
から要望があれば説明に出向
いて理解を進めていきたいと
考えている。できるだけ多く
の世帯に加入してもらえるよ
う、魅力ある事業としていき
たい。

【問】小学校の統合についてど
のように考えていいか。

【答】23年度、中川根南部小の
2、3年生が複式学級となる
見込み。当面は、統合よりも
複式学級の運営方法やその良
さを認識し、より良い教育環
境の整備を図っていきたい。

【問】北小学校施設の今後の利
用はどのように考えるか。

【答】町が管理している施設は
校舎、グラウンド、プール。今
後、これらの施設を集会所な
どに活用する場合、補強が必
要。全体で約1億2,600万

円の費用がかかる。解体する
場合は校舎全体で4,900
万円の費用がかかる。活用方
法について、地元との協議や
NPO法人からの提案もあつ
たが、国庫補助金の返還や耐
震補強の費用などの課題もあ
り、現在のところ具体的な案
には至っていない。地元、関
係機関と協議を重ね、施設の
あり方を検討していく。

ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう